大震災・原発事故とこころのケア
―フクシマの教訓―

福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

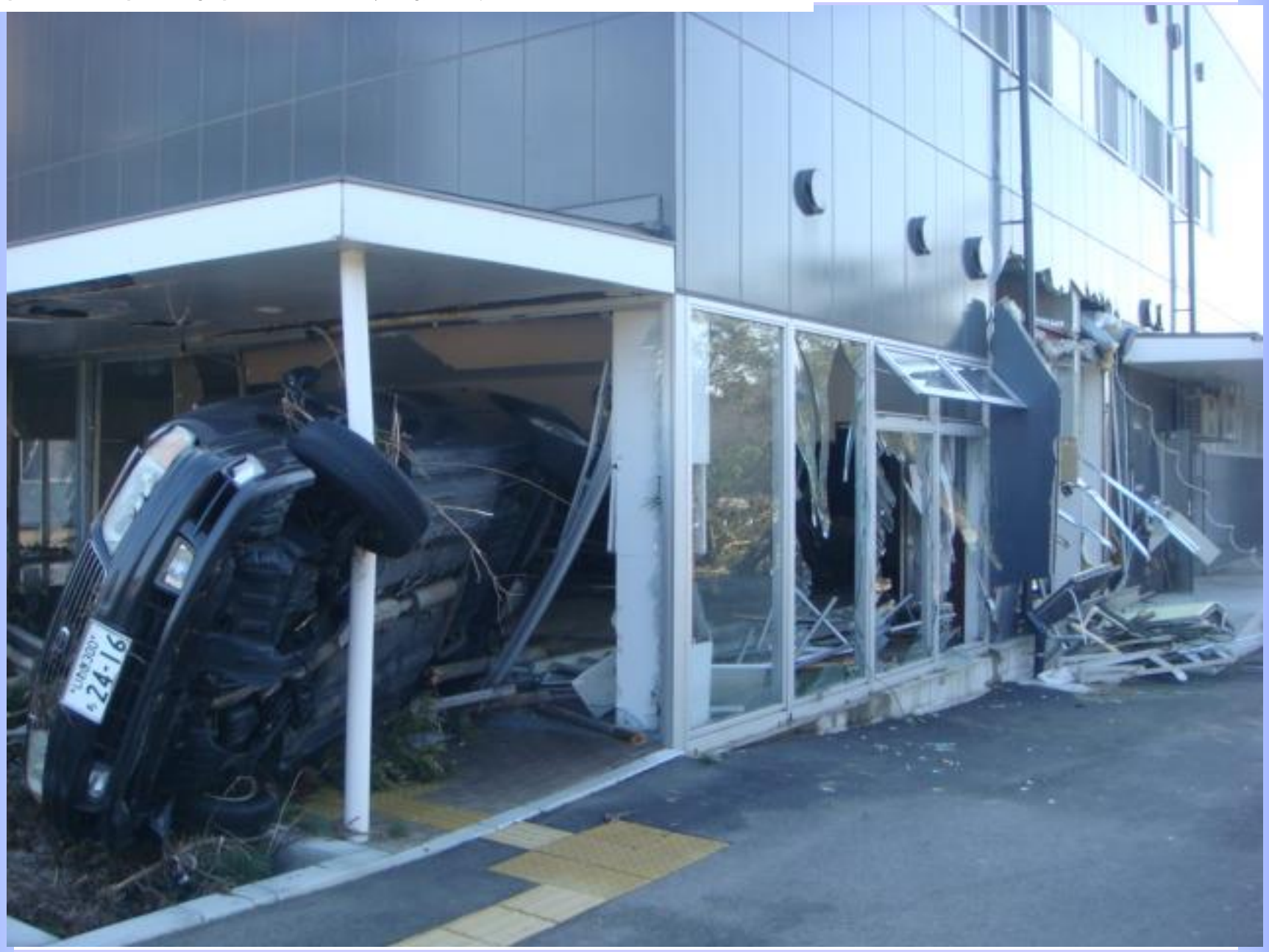
丹羽　真一

加藤　郁子氏作成

加藤　郁子氏作成

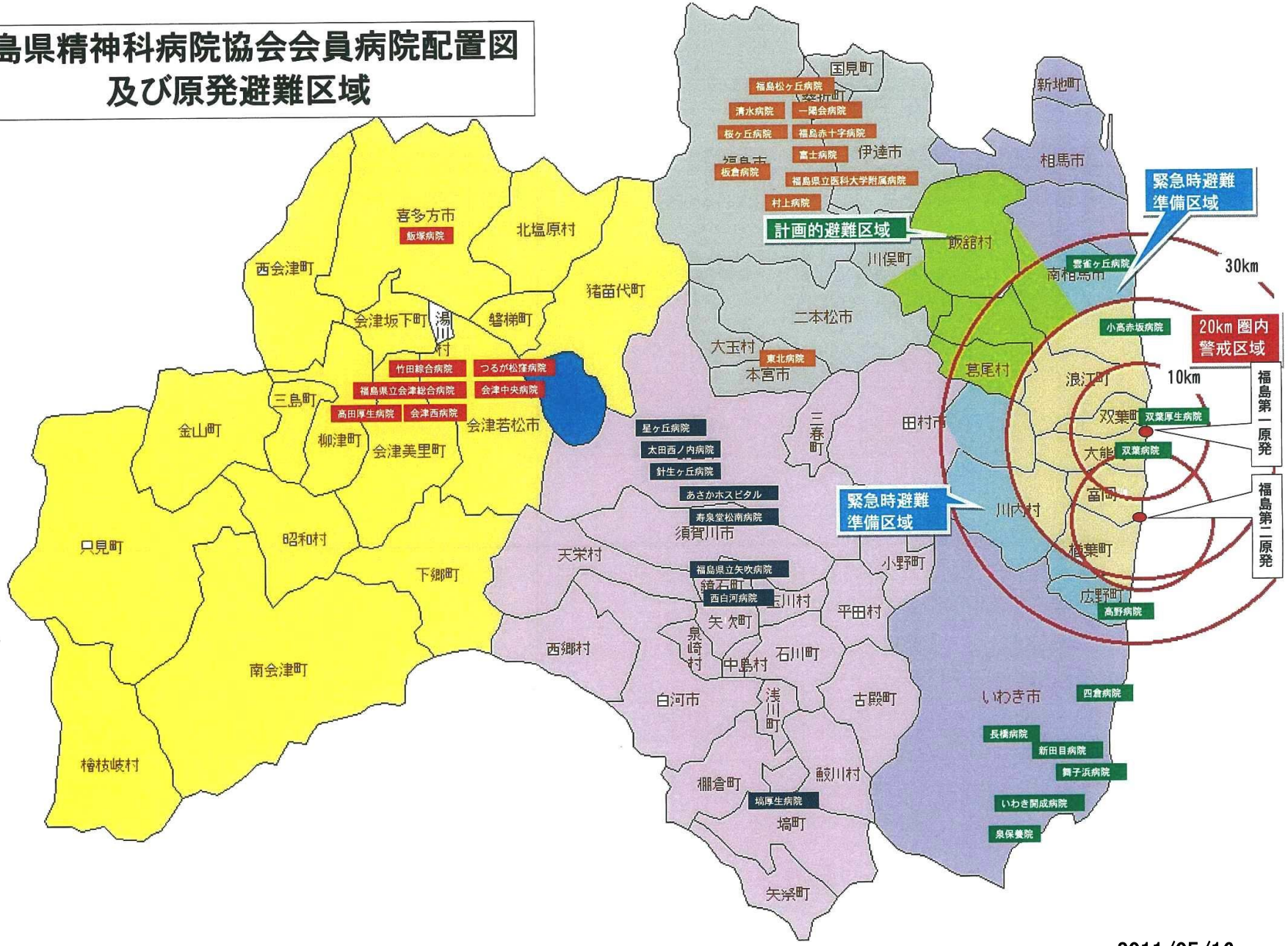
精神科医療システムにおきた障害の状況

舞子浜病院玄関付近車が建物に突っ込んでいる状況

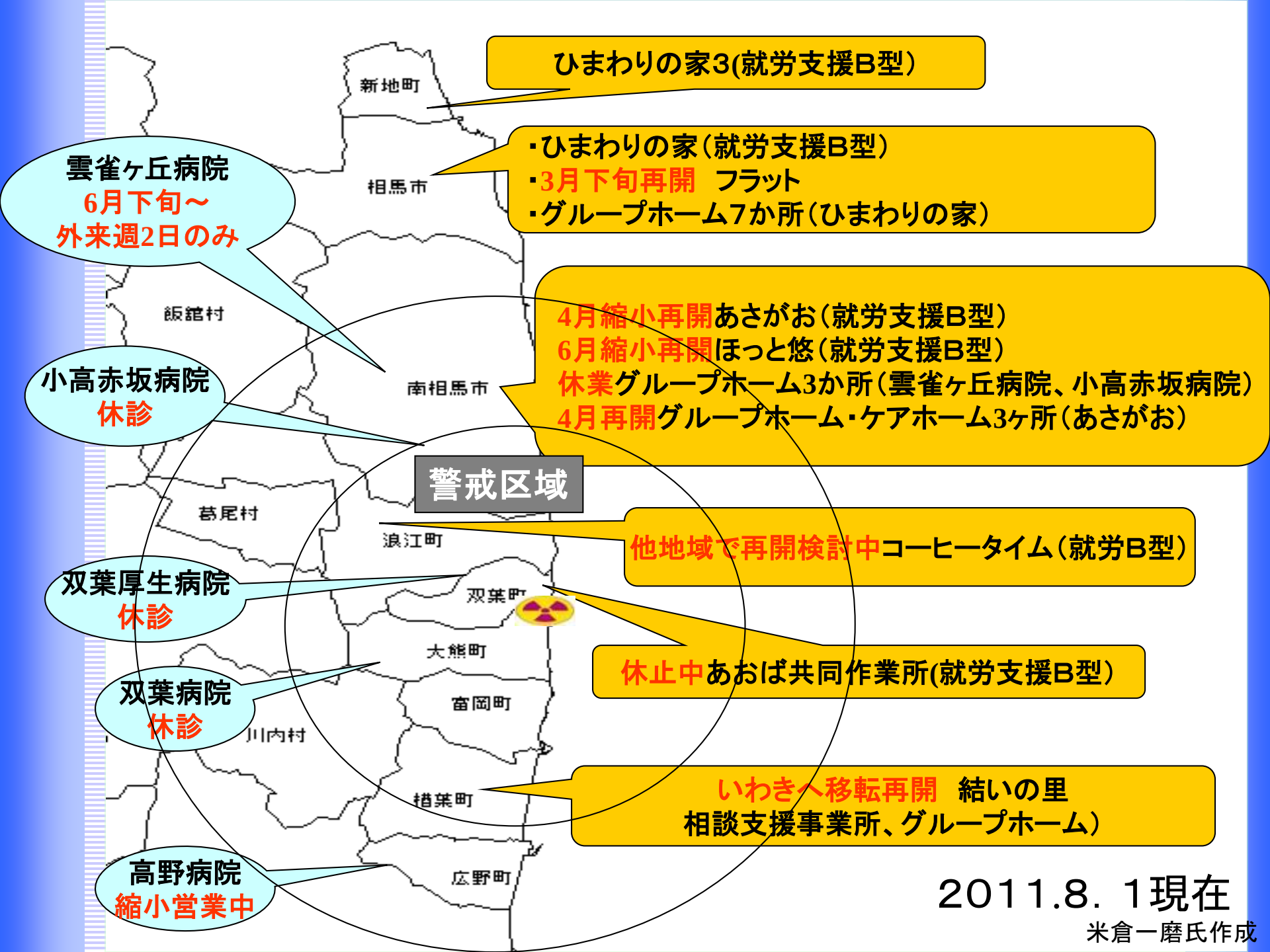


舞子浜病院　本田教一先生より提供

福島県精神科病院協会会員病院配置図
及び原発避難区域



2011/05/16
福精協事務局作成


ひまわりの家3(就労支援B型)
新地町
相馬市
・ひまわりの家(就労支援B型)
・3月下旬再開　フラット
・グループホーム7か所(ひまわりの家)
雲雀ヶ丘病院
6月下旬～
外来週2日のみ
飯舘村
4月縮小再開あさがお(就労支援B型)
6月縮小再開ほっと悠(就労支援B型)
休業グループホーム3か所(雲雀ヶ丘病院、小高赤坂病院)
4月再開グループホーム・ケアホーム3ヶ所(あさがお)
小高赤坂病院
休診
南相馬市
警戒区域
葛尾村
浪江町
他地域で再開検討中コーヒータイム(就労B型)
双葉厚生病院
休診
双葉町
大熊町
休止中あおば共同作業所(就労支援B型)
双葉病院
休診
富岡町
川内村
いわきへ移転再開　結いの里
相談支援事業所、グループホーム)
楢葉町
高野病院
縮小営業中
広野町
2011.8. 1現在
米倉一磨氏作成

ケアチームの活動

ケアチームの活動

―いわき編―

大阪さわ病院・緑川先生作成

【福島医大こころのケア・チームの活動内容】

①避難所　40～60カ所の巡回と支援者のケア

被災者全般＆精神科患者さんへのケア

1日に各チームが各避難所3～5カ所巡回。

フォローケースは週1回再度面接。

⇒『医療機関の機能回復までのつなぎ役』

②保健所への個別相談　入院ケースに対応

さわ病院　緑川先生作成

【活動内容　続き】

③在宅支援

措置入院歴のある患者や保健所が経過を見ていたり、訪問時、気になるケースは早期に在宅訪問。

⇒再燃予防。

④保育園　幼稚園　子供たちと親、先生へのケア

⇒小児科医と講演、集団及び個別相談

⇒ほとんどが子供の異常行動や被爆に対する不安。ニーズが非常に高い

⑤保健所での乳児健診の際に兄弟・母へのケア

⇒気になるケースは別室で個別面接

さわ病院　緑川先生作成

事例C　PTSD

19歳女性。保育科短大生。既往歴なし。自宅が豊間地区で津波で全壊し被災直後より避難所生活。避難所にて、地震のあった時刻頃に落ち着かず、感情失禁著明で退行することが多い。昼間から夜にかけて突然泣きだし母に抱きつくことが多い。余震の度に津波の映像が浮かび、恐怖で体を震わせ、自宅近くにも足を運べず。明らかに生活支障をきたしている状況。被災1か月後の余震でさらに状態は悪化。毎週ケアチームが介入し、親友の力も借り訪問してもらいできるだけ通常生活に戻れるように学校も再開。少しずつではあるが改善傾向。

⇒これほどまでに親や友人による安心感の提供が有効であると実感した例はなかった。

さわ病院　緑川先生作成

ケアチームの活動
―相双編―

相双（相馬・双葉）地区の市町村からの二つの支援要請

相双地区での心のケアチームの活動は、3月29日（火）に始まり、相馬市長の要請は二つであった。

1. 各避難所での巡回診療・相談および個別訪問
2. 相馬市長より要請を受けた公立相馬総合病院における臨時の精神科外来診療の開始

矢部博興先生作成

こころのケアチームのミーティング

６月　公立相馬総合病院にて　午後のミーティングの様子

米倉一磨氏作成

医療活動1：外来

公立相馬総合病院における臨時精神科外来
月曜日～金曜日　13:00～15:00
精神科医2名体制で対応

患者数：１５名前後／日

疾患：
- ■統合失調症
- ■身体表現性障害
- ■気分障害
- ■発達障害
- ■てんかん
- ■認知症
- ■アルコール依存症
- ■PTSD

年齢：小児（幼児）～高齢者（80歳代）

大川貴子先生作成

医療活動2:訪問看護・往診

米倉看護師(元雲雀ヶ丘病院／現相双保健福祉事務所臨時職員)をチーフに展開

訪問件数：3～4件／日

訪問目的:

■薬物療法の効果／副作用のモニタリング

■薬物調整←医師と共に往診

■衝動性のコントロール

■ストレスマネジメント

■生活状況の把握／QOL向上（活動範囲拡大）

■家族調整

大川貴子先生作成

公立相馬病院臨時外来にて

相双地区にて三村先生と打合せ

事例D　今後の生活再建のための計画や支援を相談できることが必要な事例

- 40代男性。離婚歴あり。一人くらし原発関係の会社に勤務していた。震災前、下腿部を骨折、手術し入院中であったが、病院の避難に伴い避難所へ。避難所でもアルコールを飲酒し際立った存在。足の痛みや不眠、将来の不安を和らげるため眠剤とアルコールを併用したり、ケアチーム助言を受け併用しないなどを繰り返す。
- 仮設住宅への転居にともない、眠剤は使用せずアルコールに頼っている。仕事はきまらず、生活保護を受給するようになったが、足の痛みを和らげる薬代わりになると抵うつ薬を処方するなど、チームが治療につなぐ試みをしている。

米倉一磨氏作成

子供と親の心のケア

こども達と折り紙で過ごした楽しい時間

出口貴美子先生作成

園児達は、体を動かす遊びでリラックス

出口貴美子先生作成

子供たちの状況

2才未満は、身体症状よりも親の心理を反映し、被災後の子育ての環境が特に影響している様子。3歳～5歳は、遊び（津波や地震ごっこ）の様子や排尿（パンツがおむつに戻る）、睡眠など、発達過程の問題が明らか。

6歳未満までの乳幼児では、未熟な子どもの発育発達過程での問題が多く、こころのケアというよりも子育て一般のアドバイスが必須。

小学生になると、その反応は複雑化。フラッシュバックなど具体的なストレス反応が、子供達自身の口から聞かれ、行動と心理面の不安定さが複雑に絡み合って見られるので、その反応も、個別に、時間を掛ける必要がある。

大阪さわ病院・緑川先生作成

こどもの心のケア

2011. 6/27: 心のケアチームの一部としてのこどもの心のケアの活動・連携状況 （医大医学部神経精神医学講座作成）

厚生労働省

福島県災害対策本部

県障がい福祉課

県知事

派遣要請

日本児童青年精神医学会・日本小児心身医学会派遣専門医

県臨床心理士会派遣臨床心理士

チームを構成：
下記地域で予約診療・相談

県立医大災害対策

県精神保健福祉センター
＜地域ニーズの全県調整＞

＜こどもの心のケアチーム＞

【日本児童青年精神医学会】
【日本小児心身医学会】

【福島県精神医学会】
【福島県臨床心理士会】

【福島県児童家庭課・児童相談所】
【福島県養護教育センター】

【福島医大医学部】
小児科学講座
神経精神医学講座

【福島医大看護学部】
精神看護学領域
心理学教員

＜心のケアチーム＞

浜通り以外地域でのチーム編成
県内精神科医（精神科病院協会・診療所協会等）・臨床心理士会・PSW協会・看護協会

相双地域でのチーム編成
県外からの精神科医師
看護師・心理士・PSW等
医大：精神科医
医大：看護学部職員（精神）
相双保健福祉事務所保健師

いわき市でのチーム編成
医大：精神科医
医大：性差医療センター医師
+医大：看護師・CP

会津　診療・相談：県立会津総合病院

会津　相談：会津保健福祉事務所

中通り　診療・相談：総合療育センター・県立矢吹病院・福島医大

浜通り以外

専門医/臨床心理士ペアで予約診療
保健所乳幼児健診で、児観察・母の相談
避難所での親子を対象とした相談・診療
放射能に関しての適切な啓発活動
小児科クリニックと児童相談所の連携

診療・相談：公立相馬総合病院

相談：相馬市保健センター

相双

いわき市

診療・相談：長橋病院

相談：いわき市保健福祉センター

震災・原発事故後の新入院調査

調査期間：平成23年3月12日～5月11日

対象：上記期間に福島県内精神科に新たに入院した患者。病院被災により他院へ転院した患者については対象から除外。

方法：福島県精神医学会に入会している精神科病院または総合病院精神科のうち、平成23年5月24日時点で地震・津波・原発事故により病院機能を全喪失している病院を除外した30病院へのアンケート調査。

調査内容：患者の年齢、性別、入院日、自宅被災の有無、自宅住所震災前の精神科病名、入院時状態像、入院時精神科病名、入院形態、入院前の患者状況（自宅在住、避難所使用など）、原発事故による放射線被曝への恐れが入院に関わっていたと考えられる程度（１．関連あり　２．関連あるかもしれない　３．関連あるとは言えないの３段階評価）。

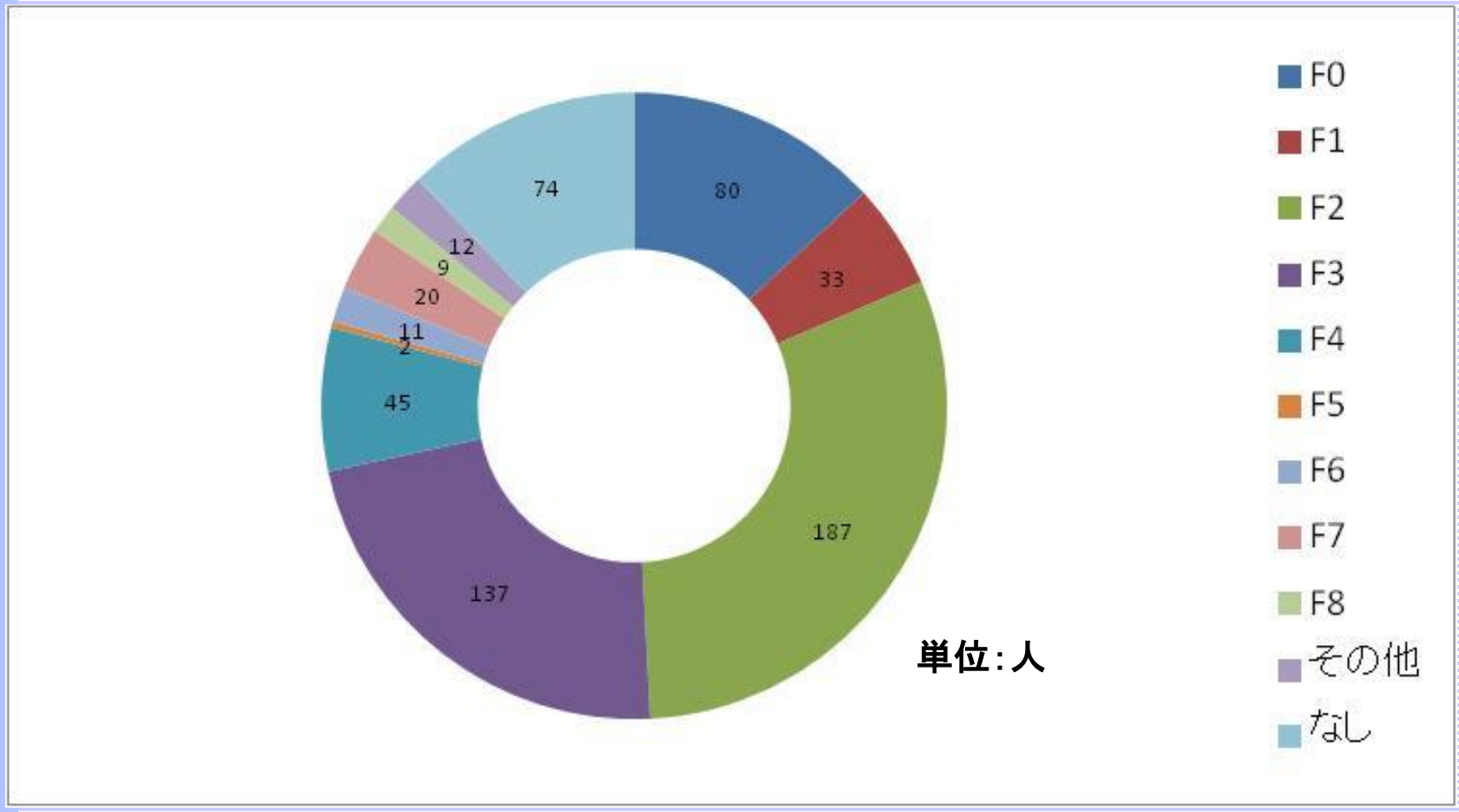
調査結果：

アンケートを30施設に送付。26施設から回答を得た。

期間中の全入院患者数：

610人（診断名不明、被災した精神科病棟からの転院、身体科よりの転科、施設からの転院を除く）

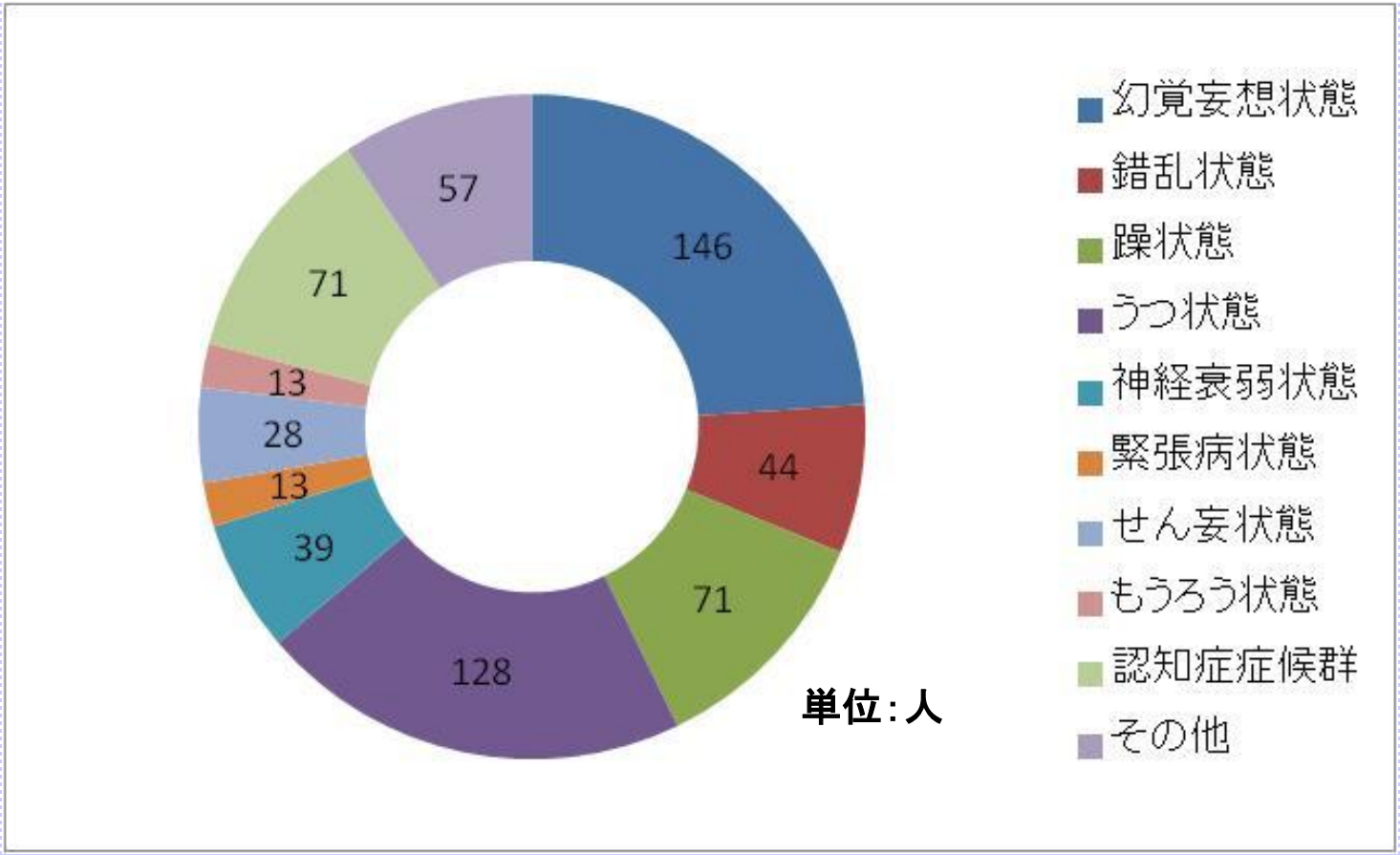
震災前の診断名



WHO: ICD-10精神および行動の障害. 研究用診断基準.　中根允文、岡崎祐士、藤原妙子訳、東京、医学書院、1994.

Department of Neuropsychiatry,FukushimaMedical University
和田　明 先生作成

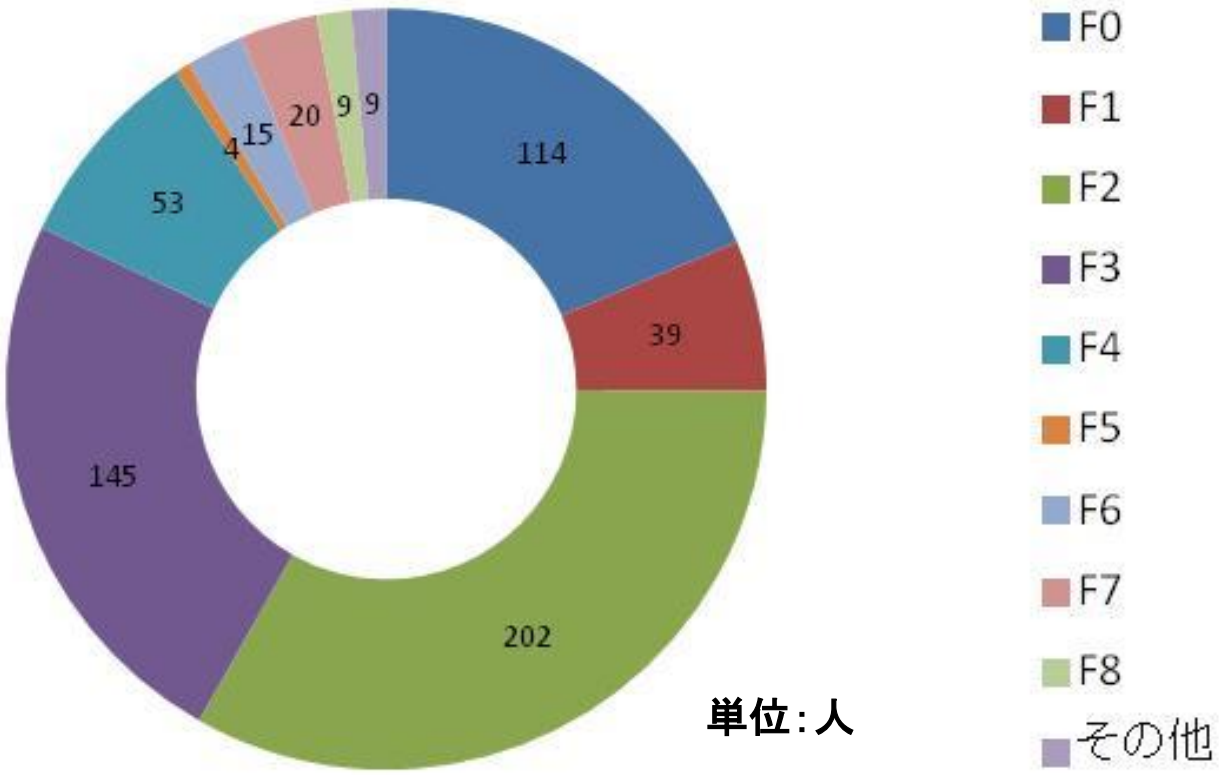
入院時状態像



大熊輝雄：現代臨床精神医学改訂第10版、東京、金原出版、2005.

和田　明 先生作成

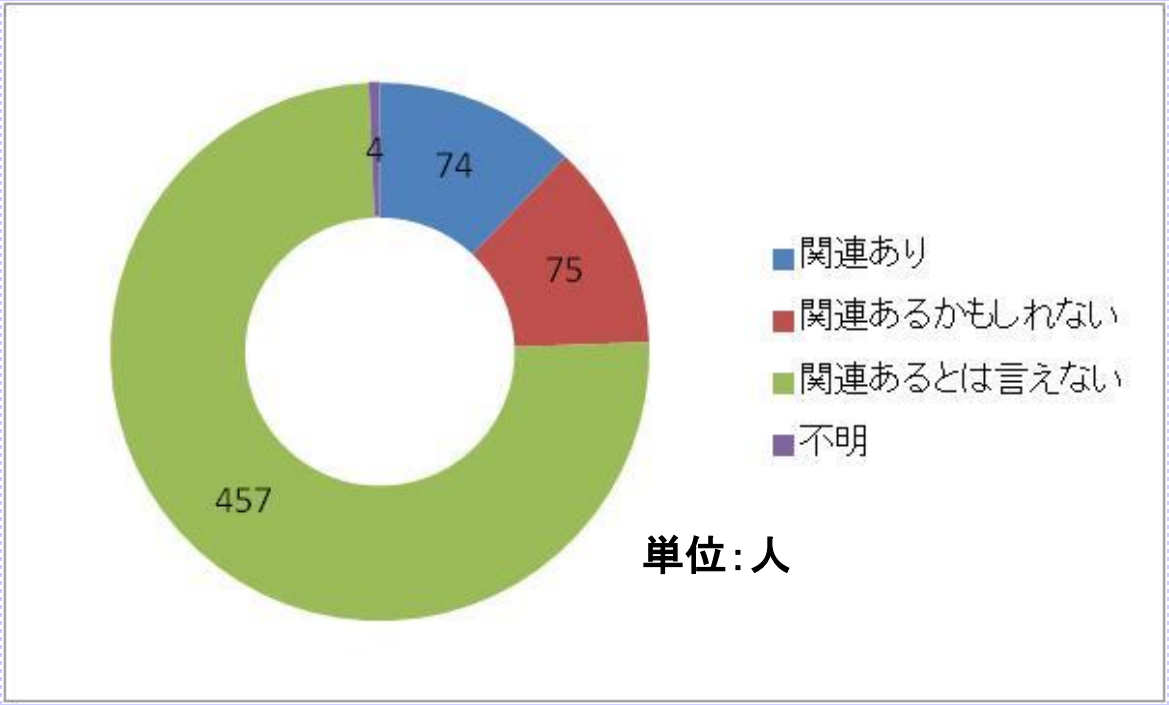
入院時診断



単位:人

和田　明 先生作成

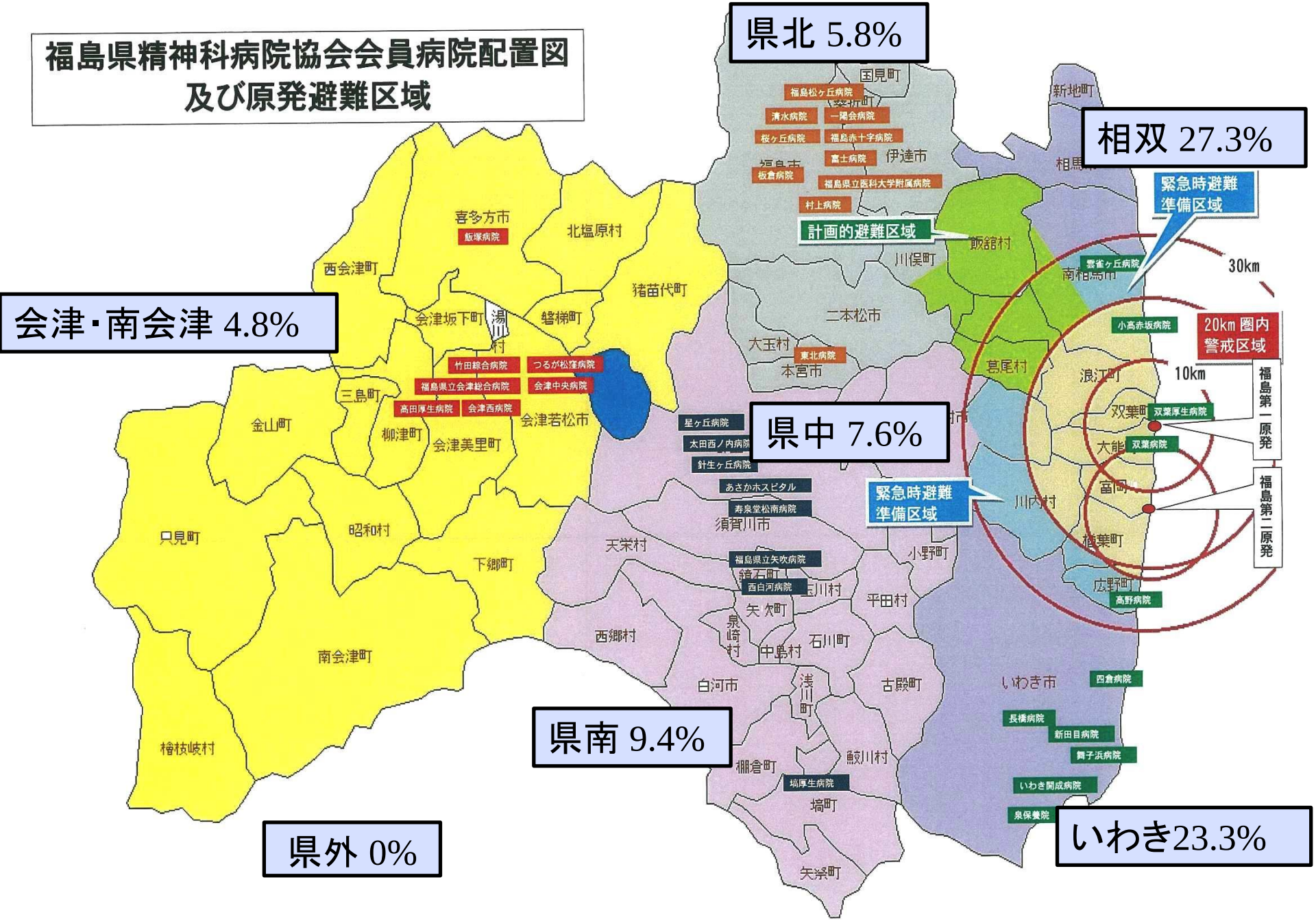
放射線被曝への恐れが入院に関連していた割合



調査期間内に入院した患者のうち、原発事故による放射線被曝への恐れが入院と関連があるとされた患者は74人(12.1%)、関連があるかもしれないとされた患者は75人(12.3%)であり、合わせて全体の24.4%であった。

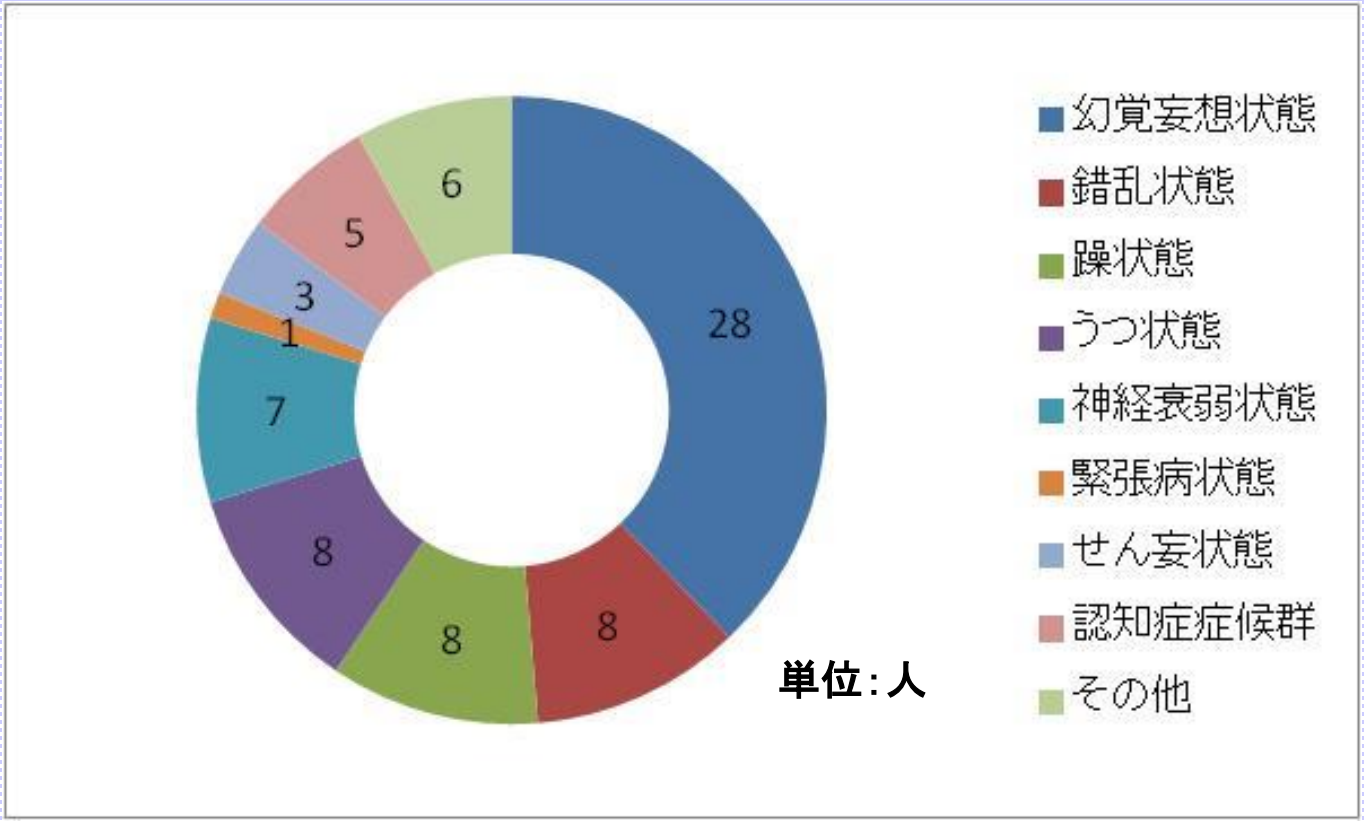
Department of Neuropsychiatry,FukushimaMedical University
和田　明 先生作成

福島県精神科病院協会会員病院配置図及び原発避難区域



福島県精神科病院協会事務局作成

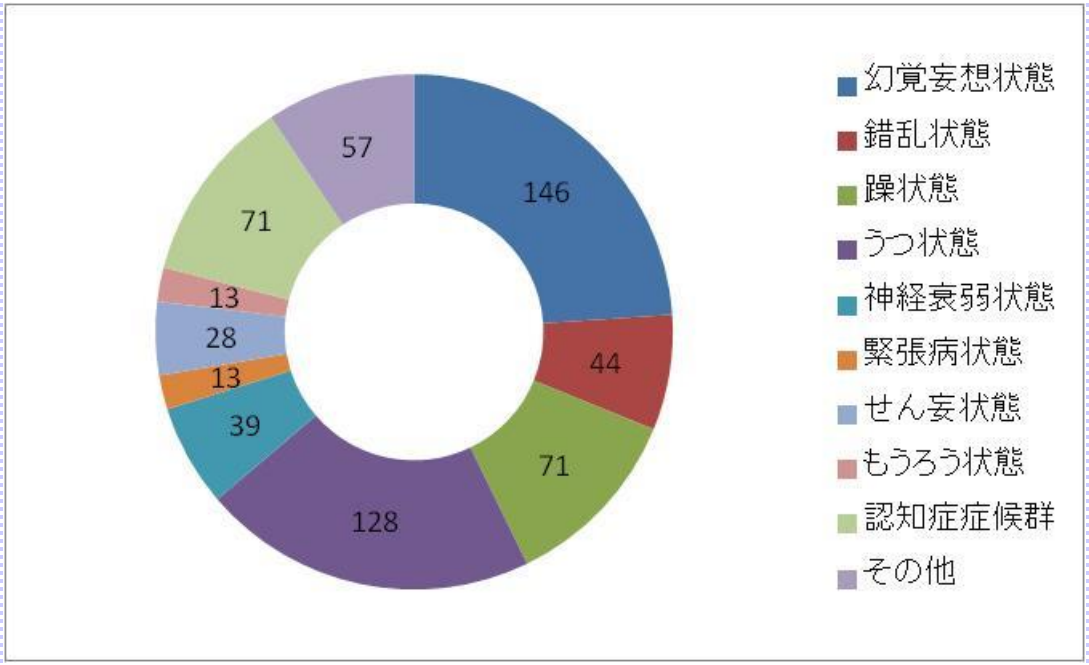
放射線被曝と精神科入院の関連があるとされた74人の内訳　入院時状態像



Department of Neuropsychiatry,FukushimaMedical University

和田　明 先生作成

躁状態での入院患者の割合



調査期間内に躁状態のために入院した患者は71人であり、全体の11.6%を占めた。これは通常時（福島医大附属病院心身医療科の平成19年～22年；3月12日～5月11日の躁状態での入院は3.6%）と比較して高率である。

Department of Neuropsychiatry,FukushimaMedical University
和田　明 先生作成

下表は平成21年度の福島県内の医療保護入院疾病別入院届出数の統計を福島県障がい福祉課の了解を得て示す。躁状態、うつ状態など全てのF3疾患の入院の割合は全体の14.5%である。医療保護入院のデータであり単純比較はできないが、震災後躁状態のみで入院全体の11.6%であったということは通常時より高率であると予測される。

病	名	件数	比率	件数
F00	アルツハイマー病の認知症	570	23.0	406
F01	血管性認知症	122	4.9	119
F02 −09	その他の症状性を含む器質性精神障害	151	6.1	140
F10	アルコール使用による精神及び行動の障害	83	3.4	36
F11 −19	その他の精神作用物質使用による精神及び行動の障害	10	0.4	3
F2	統合失調症、統合失調症型障害等	969	39.1	1,067
F3	**気分(感情)障害**	**359**	**14.5**	**55**
F4	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	52	2.1	8
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	12	0.5	3
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害	27	1.1	10
F7	精神遅滞[知的障害]	57	2.3	125
F8	心理的発達の障害	28	1.1	3
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	14	0.6	4
G4	てんかん	21	0.8	35
	その他(未分類)	0	0.0	0
	計	2,476	100	2,014

Department of Neuropsychiatry,FukushimaMedical University
和田　明 先生作成

心のケア

―その課題と方向性―

特集 東日本大震災

放射性物質セシウム134、137の蓄積量

7月16日現在

航空機による測定（福島、宮城、栃木の3県とその周辺が対象）。1平方メートルあたりの数値

- 測定結果が得られていない範囲
- 3000（キロベクレル）以上
- 1000以上 3000未満
- 600以上 1000未満
- 300以上 600未満
- 100以上 300未満
- 60以上 100未満
- 30以上 60未満
- 10以上 30未満
- 10未満

各地の放射線量 8月9日の数値

単位は毎時マイクロシーベルト

- ● 固定式の観測装置（可搬型も含む）で計測
- ▲ 携帯型測定器などで計測。装置の違いなどで数値に差が出る場合がある

秋田県 岩手県 山形県 宮城県 新潟県 福島県 群馬県 栃木県 茨城県 埼玉県

160km 100km 60km 30km 20km

福島第一原発

栗原市 0.13
仙台市 0.07
飯舘村（伊丹沢） 2.49
浪江町（赤宇木） 16.0
福島市 1.16
郡山市 0.99
郡須町 0.11
日光市 0.15
いわき市 0.18
宇都宮市 0.056
ひたちなか市 0.169

3月20日	7:10	JR奥羽線の山形 間が復旧、山形駅 一番列車が出発
	11:15	茨城県が北茨城市 ンバウから基準値の 放射性ヨウ素を検出
	14:50	さいたま市のスーパ ナ内に福島県双葉 時役場が設置
	16:00ごろ	宮城県石巻市で 家屋から80歳女性 男性が救出される
	20:03	栃木県がホウレン から基準値を超え 性物質が検出と 業団体に対し、出 自主回収を要請
	21:30	東京消防庁が3号 放水を再開
21日	8:00	東京で1時間あた 降水量を記録、以 まで連続的、断続
	11:36	5号機が外部電源 え完了、冷温停止 さらに安定
	15:55ごろ	3号機の原子炉「建
22日	6:30	JRバス関東が、会
	7:11	2号機から白い た
	10:00	東北道の全線で大
	17:17	4号機に向け、コン
	18:20	厚生労働省が福島
23日	9:00	阪神甲子園球場で
	14:20ごろ	東京都が練馬区の
	16:20ごろ	3号機から黒い煙

市町村別の二次避難状況

※6日現在（県調べ）
単位：人

会津若松市(2,674)
大熊 2,203
楢葉 459
南相馬 12

磐梯町(325)
浪江 282
南相馬 35
富岡 8

北塩原村(1,275)
浪江 792
大熊 477
南相馬 6

猪苗代町(2,869)
浪江 1,797
双葉 770
飯舘 229
富岡 40
南相馬 30
大熊 3

大玉村(41)
飯舘 41

二本松市(970)
浪江 951
飯舘 13
川俣 3
南相馬 3

三春町(101)
富岡 64
田村 37

川俣町(1)
川俣 1

会津坂下町(90)
葛尾 90

喜多方市(300)
大熊 292
南相馬 8

福島市(2,950)
南相馬 2,118
浪江 609
飯舘 171
富岡 47
双葉 3
福島 2

西会津町(6)
葛尾 6

会津美里町(29)
楢葉 29

金山町(7)
葛尾 7

只見町(12)
葛尾 12

郡山市(641)
富岡 490
川内 149
大熊 2

田村市(28)
田村 28

柳津町(174)
葛尾 174

須賀川市(4)
富岡 4

下郷町(171)
楢葉 171

南会津町(430)
南相馬 430

矢吹町(84)
富岡 77
川内 6
須賀川 1

いわき市(1,105)
広野 804
楢葉 296
富岡 5

檜枝岐村(24)
南相馬 24

西郷村(4)
楢葉 3
富岡 1

泉崎村(37)
川内 32
富岡 5

小野町(41)
葛尾 41

平田村(12)
富岡 7
楢葉 5

天栄村(9)
富岡 7
川内 2

白河市(110)
富岡 85
川内 21
白河 4

棚倉町(66)
広野 37
南相馬 20
浪江 9

矢祭町(16)
楢葉 16

塙町(43)
広野 43

鮫川村(4)
広野 2
富岡 2

石川町(330)
広野 306
楢葉 24

緊急時避難準備区域
計画的避難区域
警戒区域

飯舘村
川俣町
南相馬市
葛尾村
浪江町
双葉町
田村市
大熊町
富岡町
川内村
楢葉町
広野町

20km
30km

福島第一原発
福島第二原発

県人口流出続く　33年ぶり200万人割れ

仮設住宅着工状況

※5日現在（県調べ）

所在市町村	戸数	要請市町村別戸数	
福島市	1,382	浪江	924
		双葉	120
		飯舘	338
二本松市	1,069	浪江	1,069
伊達市	126	飯舘	126
本宮市	475	浪江	475
国見町	100	国見	63
		飯舘	37
桑折町	300	桑折	14
		浪江	286
川俣町	230	川俣	230
大玉村	648	富岡	648
郡山市	1,273	富岡	622
		川内	401
		双葉	250
須賀川市	194	須賀川	194
田村市	360	田村	360
三春町	770	富岡	330
		葛尾	440
鏡石町	100	鏡石	100
白河市	260	白河	140
		双葉	120
矢吹町	85	矢吹	85
西郷村	42	西郷	42
会津若松市	884	大熊	879
		双葉	5
会津美里町	259	楢葉	259
猪苗代町	10	双葉	10
相馬市	1,500	相馬	1,000
		飯舘	164
		南相馬	243
		浪江	93
南相馬市	2,134	南相馬	2,134
新地町	573	新地	573
いわき市	2,673	いわき	189
		広野	678
		楢葉	975
		富岡	282
		双葉	259
		大熊	240
		川内	50

本県の避難状況

矢印は役場機能の移転状況

総人口
震災前　202万4,401人（3月1日現在）
震災後　199万7,400人（7月1日現在）

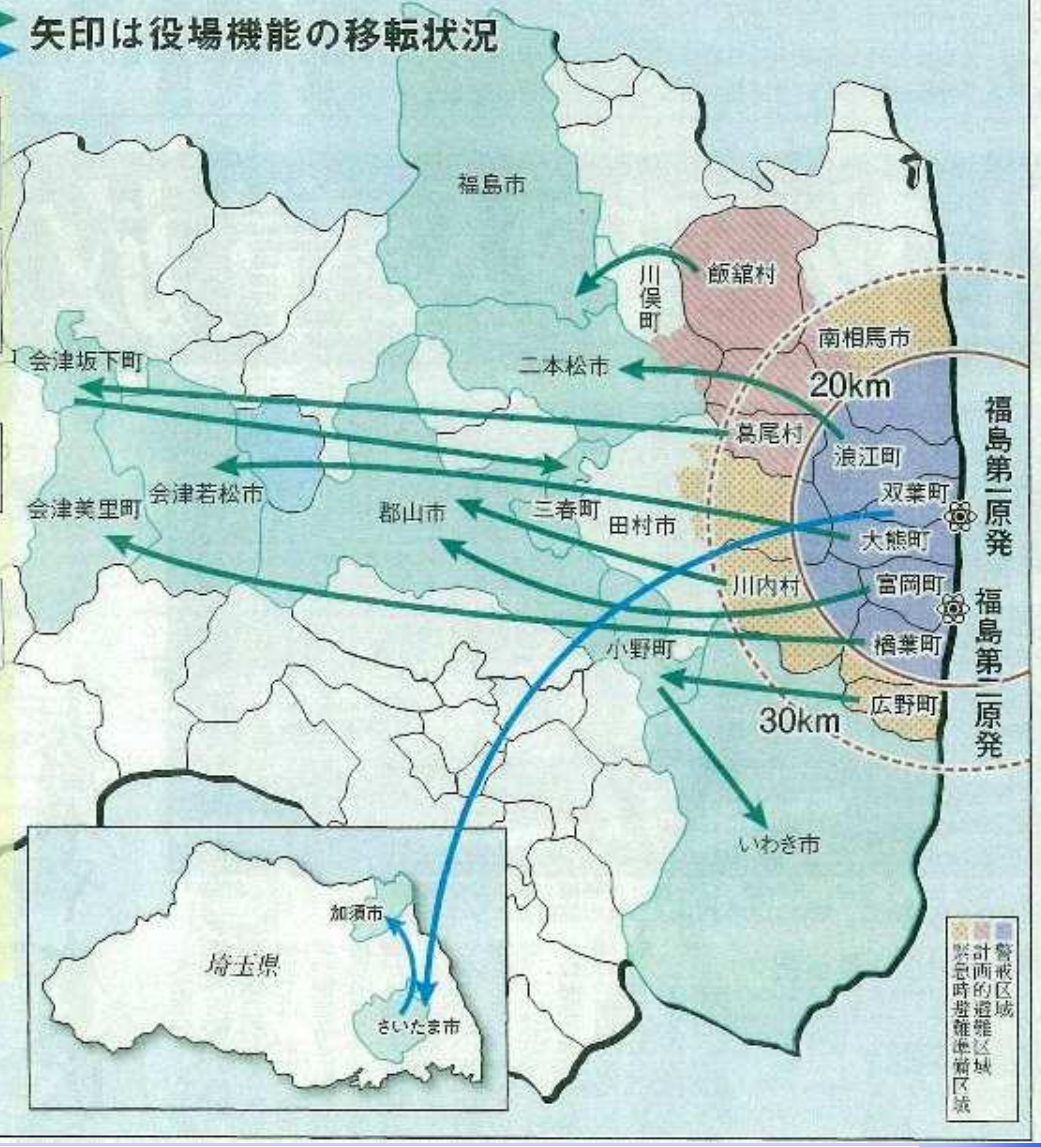
震災後の公立学校の県外転校者数
小学生　5,710人（7月15日現在）
中学生　1,962人（7月15日現在）
高校生　1,028人（8月1日現在）

1次避難所
ピーク時（3月16日現在）　7万3,608人（403カ所）
9月6日現在　241人（8カ所）

2次避難所
ピーク時（6月2日現在）　1万7,902人（541カ所）
9月6日現在　3,668人（249カ所）

仮設住宅
9月5日現在
着工戸数　15,447戸
入居戸数　10,191戸

借り上げ住宅
9月5日現在　2万1,226戸



2011.9.8福島民報

朝日新聞

2011年(平成23年)8月10日

福島の転校1.4万人

公立小中 全児童・生徒の1割

福島県内で公立の小中学校に通う約1万4千人の児童・生徒が、既に県内外に転校したか、夏休み中の転校を希望していることが同県教育委員会のまとめで分かった。全児童・生徒の1割近くにあたる。多くは「放射線への不安」を理由に挙げたという。

県教委によると、7月15日時点で県外に転校した児童・生徒が7672人、県内の転校が4575人いた。夏休み中に転校を希望している児童・生徒は、県外が1081人、県内が755人だった。東京電力福島第一原発のある「浜通り」地域だけではなく、福島市や郡山市など「中通り」地域からの転校も多いという。

夏休み中の転校希望者に理由を聞いたところ、県外転校希望の約4分の3が「放射線への不安」と回答。県内転校希望の約半数は「仮設住宅への引っ越し」を理由にした。

県教委は「事故の収束が見えず、転校を決めた家庭が少なくないのでは。保育園や幼稚園児を含めると、子どもの県外流出は深刻な問題だ」としている。

全世帯が避難している楢葉町による全世帯対象調査の結果（2011年8月）

回収率　1995／2900 世帯　（68.8%）

体調の悪くなった家族がいる？

少し悪くなった家族がいる	53.8%
非常に悪くなった家族がいる	17.7%

家族に次のような人がいる？

先の見通しがつかず精神的につらい	72.2%
睡眠があまり取れない	3割超
することがなく生き甲斐がない	3割超
アルコールを飲む回数や量が増えた	17.8%
収入が全くなくなった	21.7%

（2011年10月1日　朝日新聞12版から）

震災後、自殺者が急増　因果関係は不明　政府が情報収集に乗り出す

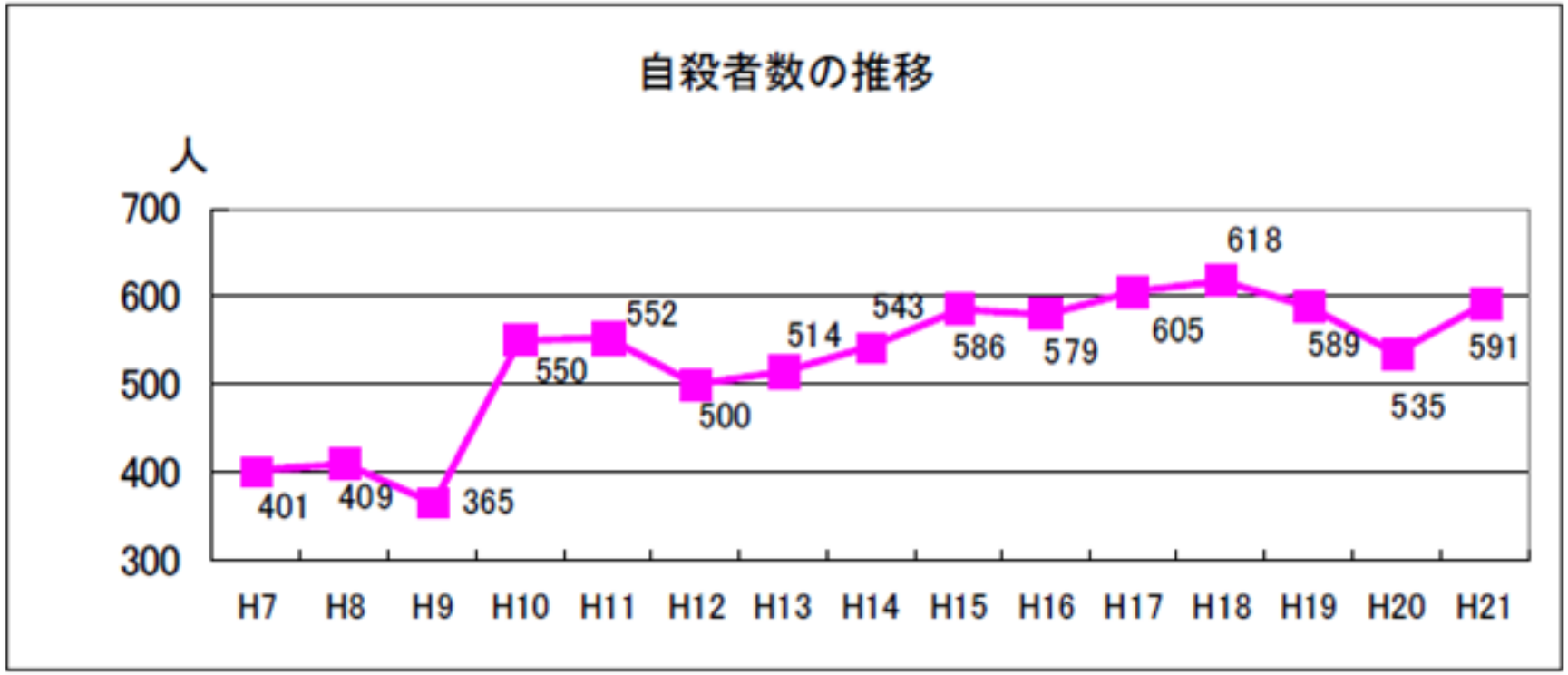
2011.7.16 00:15

　自殺者が急増している。　４～６月は３カ月連続で前年同月を大幅に上回った。　津波で自宅を失い無理心中した高齢夫婦、放射能汚染で野菜の摂取制限が出された翌日に自殺した農家…。政府は　対策に生かすため詳細な情報収集に乗り出した。

- 6月11日、福島県相馬市の酪農家の男性（55）が自殺しているのが見つかった。　フィリピン人の妻と息子２人は福島第１原発事故の影響でフィリピンに帰っていた。「原発さえなければ…」。男性は堆肥小屋の壁にこう書き残していた。
- 飯舘村では４月中旬、102歳の男性が死亡しているのが見つかった。家族が村外に避難し、離れ離れで暮らしていたことを苦にした自殺とみられている。
- ６月下旬には「老人はあしでまといになる。お墓にひなんします」と遺書に記し、自殺した南相馬市の93歳の女性もいた。

　警察庁のまとめでは、福島県内の自殺者数は４月以降、３カ月連続で前年同月を上回っている。特に５月は４０％近い上昇率を示しており、震災の影響をうかがわせる数字といえる。

県内の自殺者推移



月あたり平均 46人

出典：人口動態統計（厚生労働省）

資料：福島県保健福祉部「保健統計の概況」

こころのケアの課題

1　精神疾患患者の治療の継続と維持
2　震災・原発事故のために新たに発生するPTSDやアルコール依存などへの早期介入
3　放射能汚染の不安への対処
4　高齢者の認知機能低下の抑止
5　自殺の抑止
6　医療・福祉スタッフのメンタルケア力の向上

相双に新しい精神科医療・保健・福祉システムをつくる会の事業

「相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」構想図

仮設住宅へのアプローチ（新地町・相馬市・南相馬市）

- 「いつもここで一休みの会」
- 「サロン」
- 全戸訪問（11・3・7月）

相馬市保健センターおよび南相馬市原町保健センターでの活動

- 「ちょっとここで一休みの会」

職員の心の相談/健診：年1回

- 相馬広域消防署員
- 高校教員
- 新地ホーム
- 役所/役場職員

未受診者・治療中断者の治療導入への支援

- 相談
- 訪問

精神科医療保健福祉関係者へのアプローチ

- 研修会
- 定期ミーティング
- DVD作成

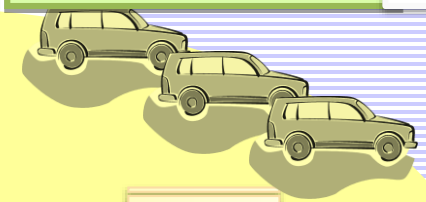
相馬広域こころのケアセンター なごみ（仮称）

アウトリーチ型精神科クリニック(有床)

精神科小規模デイケア

訪問看護（24時間対応）

入院ベッド（2～3床）（危機介入・レスパイトケア）



巡回車の運行

訪問

自　宅

福祉施設（地域活動支援センター／グループホーム等）

搬送方法の確立

中通りの病院へ

2011.8.6配布資料
事務局案